最近の気になる言葉４

プラズマテレビ

「プラズマ」とは、放電現象のこと。放電によって発生した紫外線で蛍光体を発光させ、明かりとして利用しているのが、おなじみの蛍光灯です。プラズマテレビは、赤（R）・緑（G）・青（B）の色を付けた細かい蛍光灯をびっしりと敷き詰たような構造になっていて、各点を発光させて画像を作りだしています。

プラズマテレビは、画面の各点が発光するため、明るい画像が表示でき、広い視野角が得られます。すべての画素が発光するため、ブラウン管のようなちらつきとも無縁です。また、構造が比較的単純なので、大画面を容易に作ることができ、32 インチ～50 インチといった製品が発売されています。ただしミクロン単位の微細加工は難しく、今のところ 30 インチ以下の製品はありません。

液晶テレビ

表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受像機。液晶は液体の流動性と固体(結晶)の光学的性質を併せ持つ物質の状態の一つで、２ 枚のガラス板の間に液晶状態の物質を封入し、電圧をかけることによって液晶分子の向きを変え、光の透過率を増減させることで像を表示します。

液晶は他の表示方式に比べ薄型軽量で消費電力も少なく寿命も長いといった特徴があります。一方、応答速度が遅く動きの激しい映像の表示は苦手で、色の再現能力も劣り、視野角が狭く、大型化が困難といった弱点がありましたが、技術の発展によりこうした弱点は克服されつつあります。